2023.07.26.
T.Kobayashi

大相撲名古屋場所雑感の記
（往生こいたがね こん場所は）

<1>　始まる前の予想と予感

マスコミは「三人の関脇が同時に大関昇進の可能性」と囃し立てていた。もしそのようなことが本当に起きるとしたら、それはどういうことを意味しているのか、初日が始まる前にふと考えて見た。
三人の関脇が全員12勝3敗以上の成績を上げると言うことは、照ノ富士と貴景勝がかなりの黒星を並べる可能性がある ということである。
横綱は不振になったら休めばよいが大関は陥落につながる。つまり三人の関脇が大関になったとしても、数場所後に貴景勝が大関から陥落し、その前後に照ノ富士の引退が考えられるということである。
視点を変えて、「強さの証明」をするのには何勝が必要かを考えて見た。
三人の関脇の相互の取組が三番発生する。この戦いを2勝で切り抜けるか、1勝かそれとも全敗かという関門がある。さらに、自分よりも格上の力士（横綱・大関が三人）に対してどの程度の星を残せるかという二つ目の関門がある。この二つの関門を抜けるには五番の取組をこなさなければならない。
三人の関脇の中で抜きんでていることを証明するには、関脇同士の戦いを無敗で抜ける必要があり、それができるのは一人だけである。対横綱・大関戦も含めて五戦で勝ち越さないと強さの証明にはならない。
「三場所で33勝」などという数合わせの議論など問題外である。万が一横綱・大関が休場に至れば、そのハードルはさらに高くなると考える必要がある。平幕力士を相手に負けている場合ではないのだ。三人が同時に大関に昇進するというかなり考えにくいことを興味本位で騒ぎ立てることが全く以て不可解である。
そんなことを考えていたら、「貴景勝休場」のニュースが流れた。
よろしくない筋書きに向かって動きが始まるかもしれないと、心配になっている内に初日を迎えた。

<2>　照ノ富士よ お前もか

初日になって新大関霧馬山改め霧島の休場が発表され、「凶」の文字がちらつくスタートになった。
そして、結びの一番の取組に注目した。
阿炎の攻めをかわして勝ちはしたものの、照ノ富士の足腰はまったく不安定で、「いつ、誰にやられるのかな」という感じの土俵だった。高い腰、曲がらない膝、それを補うはずの体の動きは全くなく、油が切れた器械のような動きだった。
二日目は錦木に転がされ、三日目には翔猿の激しい動きに翻弄されて、付いていくだけで精一杯。遂に土俵を割ってしまったのだが、その後歩くこともできない状況。素人が見てもわかるような「腰がおかしい歩き方」で退場し、翌日から休場となった。不完全な膝の動きを支えることによる不自然な腰の構えが長く続くと、腰の周りの様々な筋肉が異常をきたすことになる。膝の故障を体験した私には状況が想像できる。

<3>　大関は

貴景勝の休場はすでに決まっていたが、霧島は初日の割りが決まってから休場を届けたため、初日が不戦敗となり、二日目から休場。4 日目から横綱が休場となり、やはり横綱・大関不在かと思ったら霧島が再出場した。
琴ノ若に送り出しで勝ちはしたものの、迫力も切れ味もなく、本当に回復して出場したわけではないことがよくわかった。その後も精彩を欠いた取り口が続き、中日を終えて 2 勝 4 敗 2 休。
回復していないままの再出場であることが明らかになった。
大関という責任ある立場からすると、一旦出場した後で再度休場することになれば批判の声は避けられない。
今場所は勿論のこと、来場所についても重荷を背負っての歩みになるだろう。
結果として、霧島は新大関の場所で負け越しとなった。来場所は東西の両大関がカド番で、こんなことを何年も繰り返していて良いのかと思うのは私だけだろうか。

<4>　さてさて優勝争いはどうなった

10日目までは平幕の錦木と北勝富士が1敗で先頭を走り、ことによるとまた平幕優勝かと思った人もいたかもしれない。終盤に入り錦木が脱落し、後に続いていた２敗力士もいなくなり、勝ち残った北勝富士に豊昇龍と伯桜鵬が加わってきた。

これまでにも優勝争いのトップグループを走った経験のある北勝富士に遂にチャンスが巡ってきたか、と読んだ人もいた。一方では新入幕の逸材伯桜鵬がいきなり優勝か、との見方をする人も出てきた。

そんな中で、豊昇龍の相撲は日を追う毎に緊迫感を増して、「上手い・早い・強い・粘り強い」相撲になってきた。そして本割りを征し、優勝決定戦を征して賜杯を手にした。

平幕優勝を否定するわけではないが、15日間全日出場した力士の中で最高位である東の関脇が優勝したことで、何とか大相撲の面子を保ったというところだろうか。

<5>　関脇は・・・？

NHK（だけかどうかわからないが・・・）が放送の中で必要以上に囃し立てている三人の関脇の成績の推移を整理してみた。「誰が誰に負けているのか？」という視点を中心に足取りを辿ると、下表のようなデータができた。この表を見ながら、三力士の15日間を振り返って見る。

力士名		5日目	中日	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	千秋楽
豊昇龍		4勝1敗	7勝1敗	8勝2敗	9勝2敗	9勝3敗	10勝3敗	11勝3敗	12勝3敗
負けた相手	大関								
	関脇								
	小結			琴ノ若					
	平幕	錦木				北勝富士			
大栄翔		4勝1敗	6勝2敗	8勝2敗	8勝3敗	8勝4敗	8勝5敗	9勝5敗	9勝6敗
負けた相手	大関				霧島				
	関脇						若元春		
	小結		琴ノ若						
	平幕	錦木				玉鷲			隆の勝
若元春		3勝2敗	6勝2敗	7勝3敗	8勝3敗	8勝4敗	9勝4敗	9勝5敗	9勝6敗
負けた相手	大関					霧島			
	関脇							豊昇龍	
	小結								
	平幕	正代 錦木		阿武咲					朝乃山

豊昇龍＝大関霧島に勝ったが、霧島が休場明けなので本来の力を出したのかどうかはわからない。
　　関脇同士の戦いは若元春に勝ったが、大栄翔とは戦っていない。
　　小結琴ノ若に敗れ、平幕の二力士に敗れた。
　　12勝3敗で優勝したこともあり、大関昇進が内定した。

大栄翔＝休場明けの大関霧島に負けた。
　　関脇同士の戦いは若元春に勝ったが、豊昇龍とは戦っていない。
　　小結琴ノ若に敗れ、平幕の三力士に敗れた。

若元春＝休場明けの大関霧島に負けた。
　　関脇同士の戦いは豊昇龍に敗れたが、大栄翔には勝ち1勝1敗。
　　平幕の四力士に敗れている。

いずれの力士についても言うことができるのだが、通常の正常な場所であれば、横綱・大関との戦いが加わり更に黒星が増える可能性があるので星取表をきちんと読み取らないと大事な視点を見落とすことになる。

このところ、「新大関誕生」と「大関から陥落」が繰り返されている。きちんとした大関・横綱選びが必要で、一過性の「三場所33勝」だけに踊るのは危険だということである。
NHK の相撲解説の中で舞の海さんが語っていたが私も同感である。
「見方を変えて一年ぐらいのレンジでの成績の評価で決めるなど方法を考えるべき時期かもしれない」

<6>　活躍した力士たち
これまでの引っ張り込み型の消極的な相撲の錦木が数場所前から変ってきた。今場所は初日から前進しながらの攻めで白星を重ねた。もしこれが本物だったら・・・とマスコミは騒ぎ立てたが、12日目から失速して10勝5敗に留まった。東前頭筆頭なので、来場所は新小結の地位を得て、さらに化けるかどうか。
北勝富士はこつこつと積み上げた「相撲力」を発揮した。鋭いおっつけとはず押しで相手を浮き上がらせる力強い相撲が15日間持続できた。12勝3敗で優勝決定戦にまで加わったのは評価に値する。これまでも何度か先頭グループを走ったことはあるが、31才になってまだこういう場面を経験できるのは素晴らしい。額を見れば豊富な稽古と全力投球の土俵の結果がよくわかる。
新入幕の伯桜鵬が優勝争いを千秋楽まで持込む働きをしたのは予想外だった。初場所に幕下15枚目格付出でデビューした落合が入門四場所目でこんな活躍をした。逸材と言われてはいたが、ここまで活躍できると思った人はあまりいなかった。基本に忠実で、しかも四つ相撲も押し相撲もとれるので、今後どういう力士になっていくのか興味深いが、学生相撲の逸材を付出で入門させることと新弟子からたたき上げで育てることとのバランスも気にはなるところだ。
殊勲賞は錦木、技能賞は伯桜鵬、敢闘賞は豊昇龍・琴ノ若・北勝富士・豪ノ山・湘南の海・伯桜鵬という大盤振る舞いの三賞になってしまったが、もう少し議論・吟味が必要だったのではないかと思う。
錦木は場所の前半で盛り上げる働きをしたが、終盤では雪崩のように崩れてしまい、今場所を面白くした力士と言ってしまうのにはやや難がある。今場所の賜杯争いを面白くしたと言う点では北勝富士・伯桜鵬の方が勝るし、北勝富士は優勝した豊昇龍に土を付けている。
技能賞という視点で見た場合、今場所の15日間を通してみると該当者が見あたらなかった。部分部分で感じられた技能相撲という観点では何人かの力士を揚げられるが、場所を通してとなると残念ながら該当者なしという印象だった。記者クラブは、きちんとした取り口で多彩な決まり手を駆使して、場面場面で勝ちに導く力を発揮していた伯桜鵬を選んだようだ。
敢闘賞は、こんなに沢山の力士にばらまいて意味があるのだろうか。豊昇龍は優勝したことも合わせて評価して殊勲賞の方がしっくりするような気がする。新入幕で優勝戦線に加わった伯桜鵬に敢闘賞を授与するのは理屈に合うような気がするが、同じ新入幕の豪ノ山と湘南の海にまで広げてしまうのでは伯桜鵬の価値が下がってしまう。
今場所の三賞、私ならこうする。殊勲賞＝豊昇龍　技能賞＝該当なし　敢闘賞＝伯桜鵬・北勝富士　かな。

来場所は新大関誕生と同時に、カド番大関と断崖に経つ横綱。
さて安定に向かうのだろうか、それとも混乱はまだ続くのだろうか？

以上